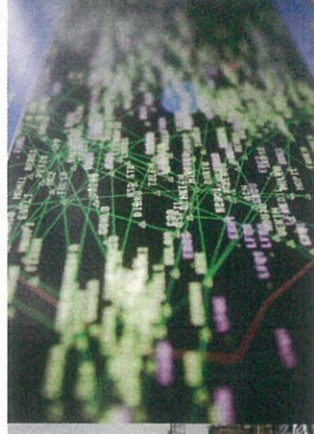
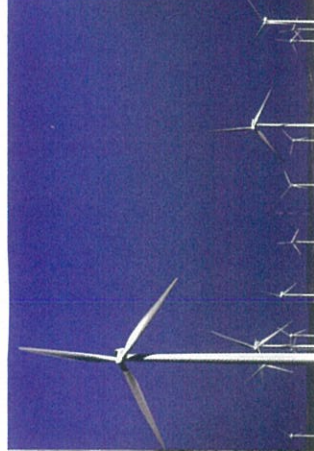
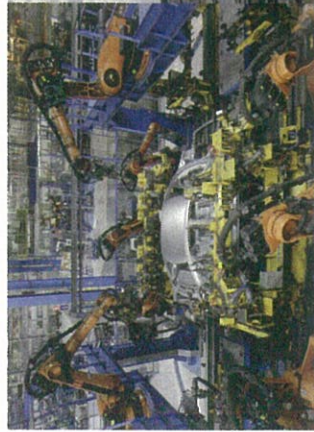


Spain your partner in Europe

スペインへの投資機会 2020



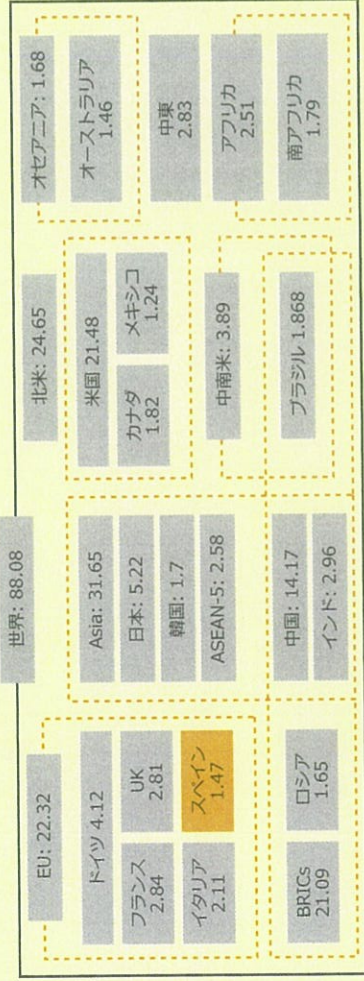
グローバル市場におけるビジネスパートナー：スペイン

● 欧州第4位の経済大国スペイン

スペインは現在、欧州第4位の経済大国（2020年1月のBREXIT以降）で、約10%の経済規模（ユーロ圏19カ国）を占めています。リーマンショック後の財政危機に対応するため講じられた金融・財政改革により、スペイン経済もマイナスからプラス成長に転じ、実質経済成長率も2%代と欧州平均を上回るまで回復しました。

また、公的セクターのスリム化、年金制度改革、労働市場改革など一連の改革が奏功し、スペインの投資環境も改善、外国企業の投資に関しても「スペイン回帰」の傾向がみられます。

● 国・経済圏別の GDP 比較 (2018年、1兆ドル)



出典：IMF World Economic Outlook October 2018

● 国別 GDP ランキング (2019年)

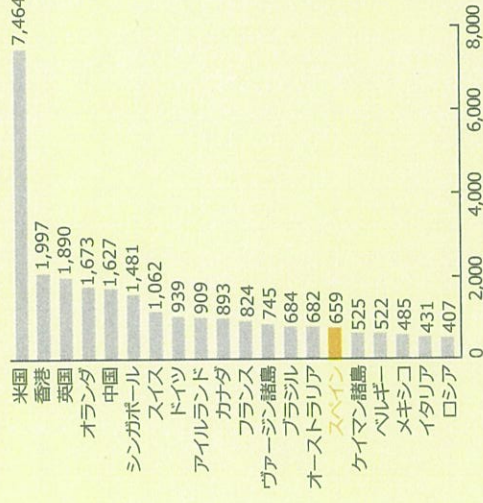
順位	国名	GDP (2019年、10億ドル)
1	米国	21,439
2	中国	14,140
3	日本	5,154
4	ドイツ	3,863
5	インド	2,935
6	英国	2,743
7	フランス	2,707
8	イタリア	1,988
9	ブラジル	1,847
10	カナダ	1,730
11	ロシア	1,637
12	韓国	1,629
13	スペイン	1,397
14	オーストラリア	1,376
15	メキシコ	1,274

出典：IMF World Economic Outlook October 2019

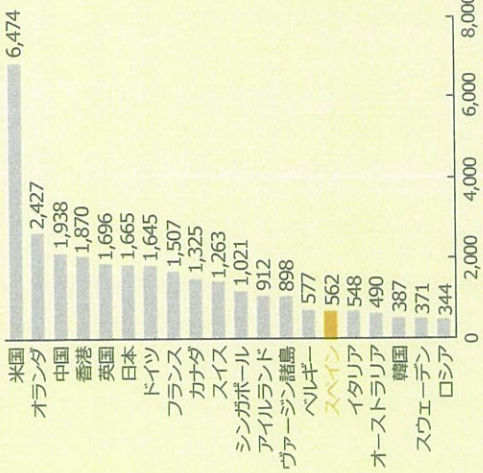
● スペインへの投資回帰

共通貨ユーロ導入時は、欧州市場の中でも生産コストが低いチェコやハンガリーなど中東欧諸国に投資がシフトされる傾向がありました。しかし、産業・通信インフラの整備状況、質の高い労働市場、内需の拡大、第三市場へのアクセスなど様々な理由で、最近ではスペインに投資が回帰しています。実際、2014年～2018年までの外国企業によるグリーンフィールド投資額（設備投資額）でスペインは英国、ドイツに次ぎ欧州第三位の位置づけとなっています。

● 対内投資残高 (2018年、10億ドル)



● 対外投資残高 (2018年、10億ドル)



出典：UNCTAD, WIR 2019.

● グローバル市場のパートナー；スペイン

製造業（自動車・電気・化学など）への直接投資受入れが中心だったスペインは、欧州に於ける戦略的な生産・輸出拠点と位置づけられてきました。昨今ではスペイン企業との連携を通じて欧州、中南米及びアフリカなど第三国市場への事業展開をはかる日系企業の投資事例が増えてきています。

スペインからアクセス可能な市場（欧州、中南米、北アフリカ）の人口を合計すると16億人強と、人口比では中国以上の巨大な市場へのアクセスがスペインを通じて可能です。



魅力的な事業環境

欧州市場におけるスペイン：比較優位性

欧州27カ国中、GDP規模でドイツ、フランス、イタリアに次いで第4位の経済規模を誇るスペイン。その市場規模のみならず、労働の質やコスト競争力、そして優遇税制や各種インセンティブなどにより魅力的な事業環境を提供しています。

2018年	スペイン	EU(28)
人口	4,700万人	5億1,348万人
GDP	1兆2,021億ユーロ	15兆9,013億ユーロ
一人当たりのGDP	24,880ユーロ	30,000ユーロ
輸出	4,221億ユーロ	7兆3,566億ユーロ
輸入	3,895億ユーロ	6兆8,382億ユーロ
対日輸出	29億6,600万ユーロ	647億5,700万ユーロ
対日輸入	30億7,600万ユーロ	703億1,300万ユーロ

出典：Eurostat, JETRO / CIA World Fact Book 2018

外国人観光客数

国	2018 (百万人)
1 フランス	89
2 スペイン	83
3 米国	70
4 中国	63
5 イタリア	62
6 トルコ	46
7 メキシコ	41
8 ドイツ	39
9 タイ	38
10 英国	36

出典：WTO Tourism Highlights 2019

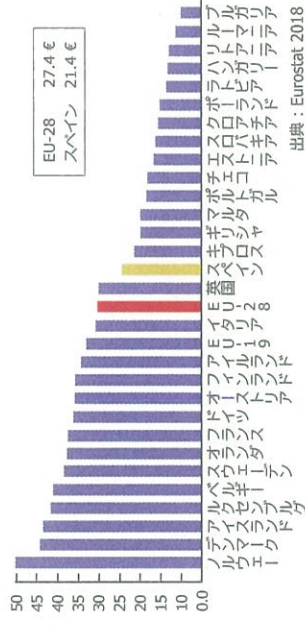
観光による外貨収入

国	2018 (10億ドル)
1 米国	214
2 スペイン	74
3 フランス	67
4 タイ	63
5 英国	52
6 イタリア	49
7 オーストラリア	45
8 ドイツ	43
9 日本	41
10 中国	40

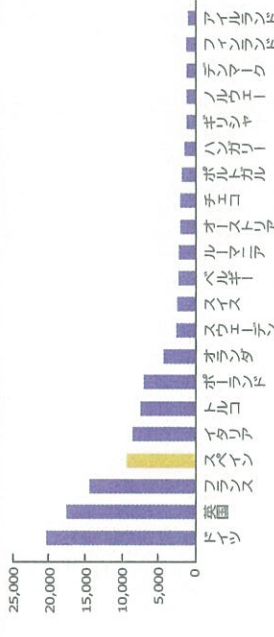
魅力的な労働コストとパフォーマンス

労働コストだけを比べれば、中東欧諸国も魅力的ですが、コストパフォーマンスではスペインが断然有利といえます。「労働生産性と教育水準の高さに比べ賃金水準が低いので、コストパフォーマンスが良好」—某日系メーカー現地法人トップのこの言葉は、スペインが「ものづくり」に適した国であることを物語っています。

労働コストの比較 (2018年、EUR / 時間)

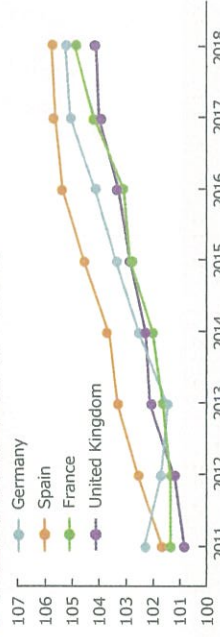


科学技術分野の高等教育を受けた人数・割合 (2018年、千人)



出典：Eurostat 2018

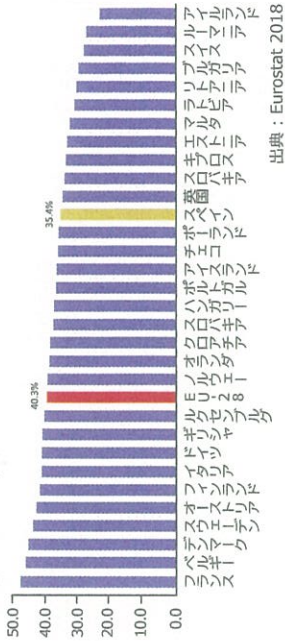
EU主要国労働生産性 (前年同期比)



出典：Eurostat Real labour productivity per person 2018

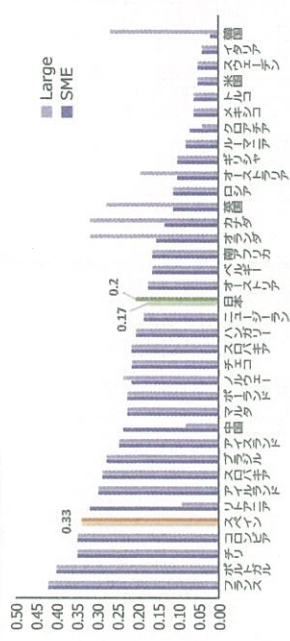
優遇税制と投資インセンティブ

租税負担率 (2018年、%)



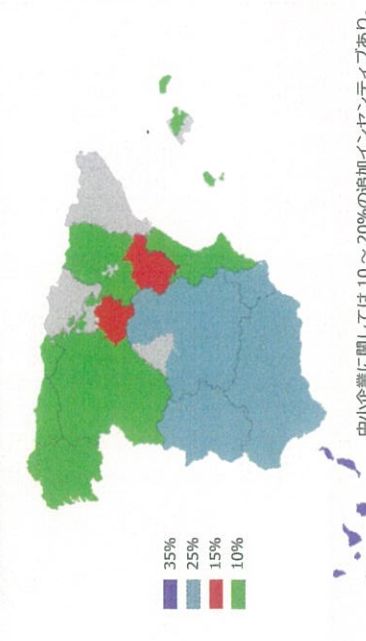
出典：Eurostat 2018

R&D 税額控除



出典：OECD, Tax incentive indicators, 2019

地域別の補助金支給率 (2018 ~ 2020年・最大)



出典：Ministry of Finance and Public Administration, 2018.

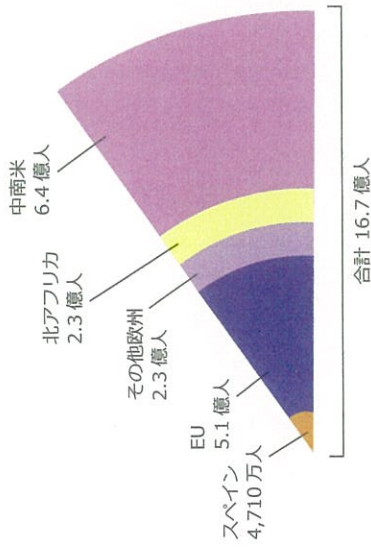


グローバル市場におけるビジネスパートナー：スペイン 第三市場へのアクセス

16.7 億人の巨大市場へのアクセス

スペインに足場を持つことで、国内市場とEU市場、さらには北アフリカや中南米までを視野に入れた事業展開が可能です。なかでも、同じスペイン語圏である中南米諸国とは、歴史的にも文化的にも近い関係にあります。こうした利点を生かし、グローバル展開や中南米市場向け展開の統括拠点をスペインに移転するケースが増えています。

● 地域別市場規模



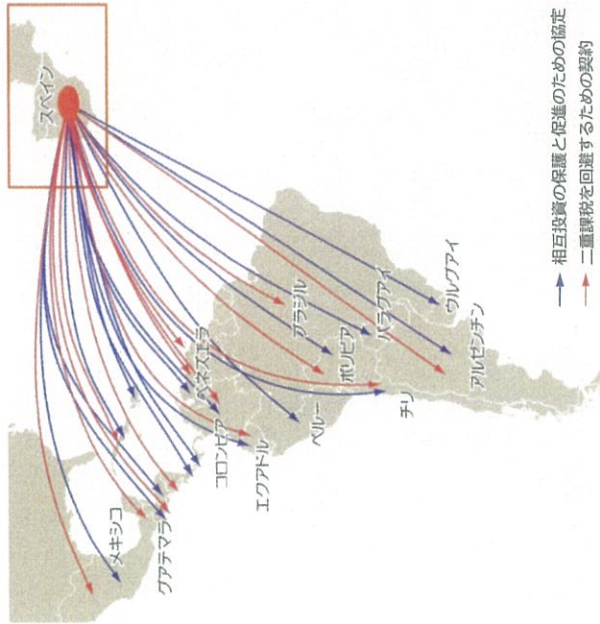
注) EUはスペインを、その他欧州はロシアを、北アフリカはスーダンをそれぞれ除く
出典：Population Reference Bureau の推定データに基づき作成 (2019年)

● 各言語人口

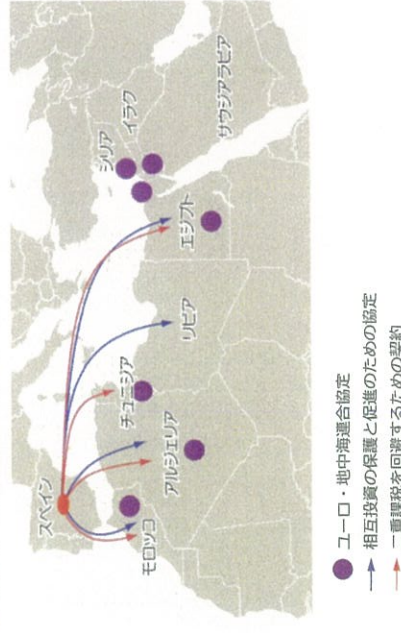
	2013年	2030年	2050年
スペイン語人口	4億9,500万人	5億3,500万人	5億5,000万人
中国語人口	8億8,300万人	10億3,400万人	11億6,600万人
英語人口	3億4,300万人	4億200万人	4億5,300万人

※スペイン語はセルリントン文化センターによる。
※母国語統計はほとんどないため、次のCIAの母国語比率をパラメタとし、世界の人口推計値から逆算。
※中国語・英語はCIAの母国語使用比率と、UNの世界人口推計のデータを基に作成。

● 中南米へのアクセス



● 北アフリカ諸国へのアクセス



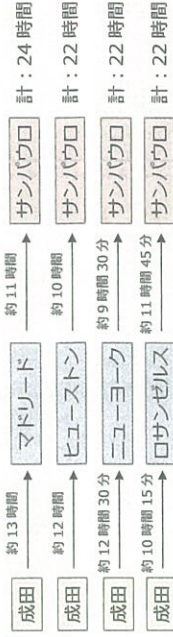
● 日本⇄スペインの直行便就航

イベリア航空はマドリッド～成田間の直行便を、2018年10月から週5往復に増便しました。日本とスペインを繋ぐ唯一の直行便ですが、輸送力の増強により日本市場の強化を目指します。スペイン観光庁によれば、近年スペインを訪問する日本人の数が急増しており、2018年には55万681人(前年比24.5%増)を記録しました。一方、日本政府観光局(JNTO)によると、日本を訪問するスペイン人の数は2018年に11万8,900人、2019年には前年比9.5%増の13万200人となりました。

スペインを経由した中南米戦略：事例

スペインに子会社(生産拠点)を持つ化学系の日系企業A社は、スペインを介して中南米に現地法人を設立しました。そのメリットとしてまず、言語及び地理的メリット*、そしてスペイン系ネットワークによる情報収集力の高さを挙げています。また、同じ言語を解する人材、特に優秀な技術者を確保できるのはスペインの強みです。日本におけるJETROの如く、ICEX、IVEXなど、スペイン政府及び州政府からの強いサポートも期待できます。スペイン企業は中南米で非常に高いプレゼンスを示していることも、メリットといえます。

* スペインの首都マドリッドは、中南米から欧州へのメインゲートといわれています。



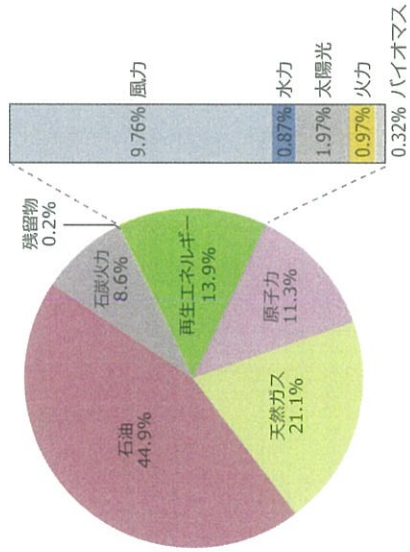
グローバル市場におけるビジネスパートナー：スペイン クリーンエネルギー分野

観光先進国から環境先進国へ

スペインは石油や天然ガスなど化石燃料の輸入依存度が高く（輸入比率98%）、自給可能な再生可能エネルギーの導入が進められてきました。欧州共通の環境目標である「トリプル20」（①2020年までに温室効果ガスを90年比で20%削減、②再生可能エネルギーの比率を20%に高める、③エネルギー効率を20%改善する）に歩調を合わせた結果、電源構成に占める再生可能エネルギーの比率40%（小水力を含む）に達しました。最近ではスペインの再生エネルギー技術や経験を活かし、日本市場での共同事業の事例が増えています。

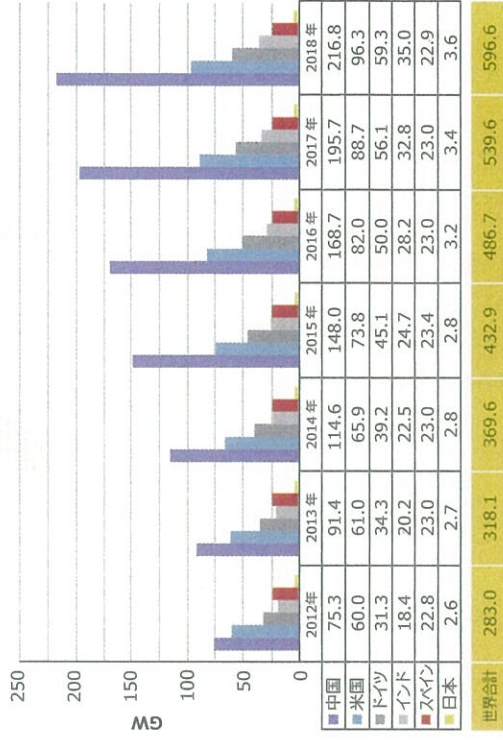
2019年に大林組が秋田県北部海上風力発電事業において、Siemens Gamesa Renewable Energy社と連携協定を締結。両社は、風力発電機の設置、維持管理における安全の確保など、相互協力していくこと、さらに本事業を通じた地域貢献を推進していくことで合意しました。

● 一次エネルギーに占める電源シェアと再生エネの内訳 (2018年実績)



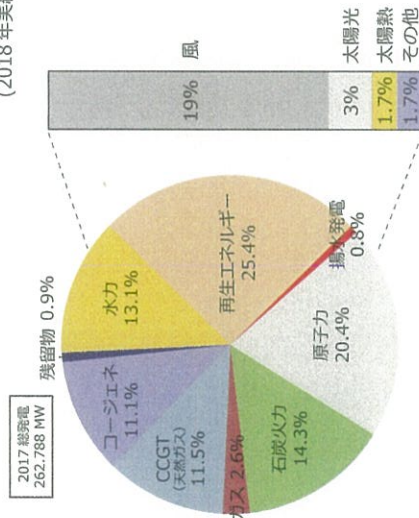
出典：Ministry of Energy, Tourism and Digital Agenda

● 風力発電導入量の国別推移 (累積、単位：GW)



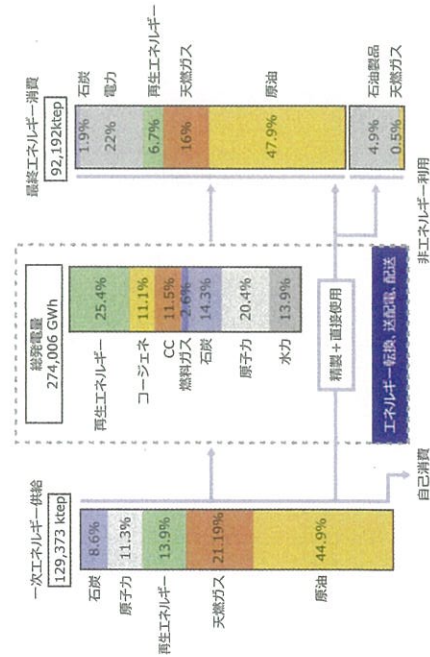
出典：World Wind Energy Association

● 総発電に占める電源シェアと再生エネの内訳 (2018年実績)



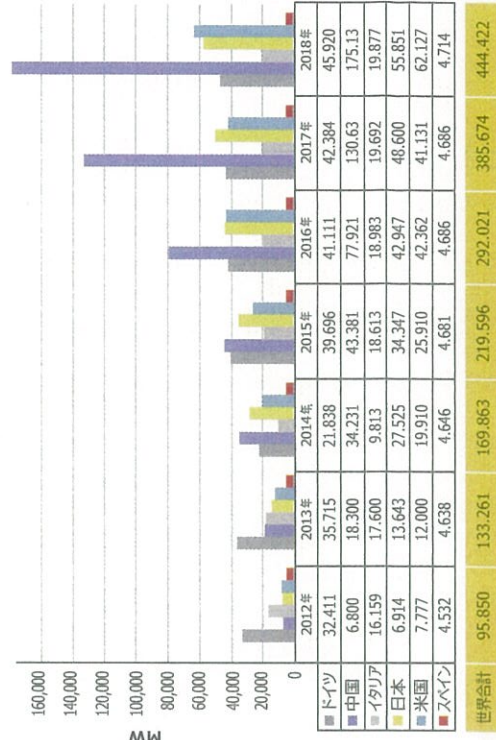
出典：Red Eléctrica de España

● 電源別エネルギー



出典：Ministry of Energy, Tourism and digital Agenda, Spanish Electric Grid

● 太陽光発電導入量の国別推移 (単位：MW)



出典：European Photovoltaic Industrial Association, Solarpower Europe, Market global outlook

グローバル市場におけるビジネスパートナー：スペイン 自動車分野

整備された自動車産業インフラ

スペインはドイツに次ぐ欧州第2位の自動車生産大国で、ルノー、フォード、日産自動車など多国籍カーメーカー9社（生産拠点数：17ヶ所）を構えています。スペインで生産される自動車のほぼ90%は欧州を中心として海外市場へ輸出されており、輸出総額に占める自動車の割合も10%を超えます。また、自動車部品産業の売上も欧州第2位で、その内の60%以上が世界150カ国以上へ輸出されています。同時に工作機械や金型産業も充実しており、自動車・部品の生産及び周辺機器と三位一体となった自動車インフラが整備されているといえます。

● スペインの自動車産業（EUとの比較）

	EU		
	2017年	2018年	2019年
生産台数	2,848,335	2,928,955	17,955,308
乗用車	2,291,492	2,267,396	16,576,261
商用車	556,843	661,559	1,781,945
販売台数	1,434,593	1,563,496	17,921,918
乗用車	1,234,932	1,321,438	15,631,283
商用車	199,661	242,058	2,290,635

出典：OICA - Organisation Internationale des Constructeurs d'Automobiles

● 自動車部品事例

● ガスタンプ + 三井物産

自動車向けプレス部品大手のガスタンプ・オートモシオン社は世界で約100箇所に工場を持つグローバル企業です。2016年には三井物産から約470億円の出資（同社株12.5%相当）を得、日本及びアジアの自動車メーカーとの取引を拡大しています。又、2017年2月には、三重県松阪市に日本初の工場の設置を決めました。工場面積は1万5000平方メートルで投資額は75億円。同社が得意とする「ホットスタンプ」という技術を活用し、薄くて丈夫な鋼板を効率よく生産し、日本自動車メーカーへの供給強化をはかります。

ホットスタンプ鋼材は燃費向上や排ガス削減に欠かせない車体の軽量化につながるため、鉄に代わる材料としてアルミや炭素繊維と共に需要が増えています。欧米市場など先進国を始めとして世界的に環境規制が厳しくなる中、プレス最大手のガスタンプ社も日本市場に生産拠点を構えることで益々の受注拡大を目指しています。

● フィコサ・インターナショナル + パナソニック

自動車用システムや樹脂部品の研究、開発、生産およびマーケティングを行うグローバル Tier1 サプライヤーのフィコサ・インターナショナルは、パナソニックと資本業務提携を合意しました。同社の主力であるミラー事業においてパナソニック社と包括的な協業を推進し、将来的には先進運転支援システム（ADAS：Advanced Driver Assistance System）分野への参入を目指しています。

- ▶ スペインは世界第8位/欧州第2位の自動車生産国
- ▶ 欧州第1位の商用車生産国

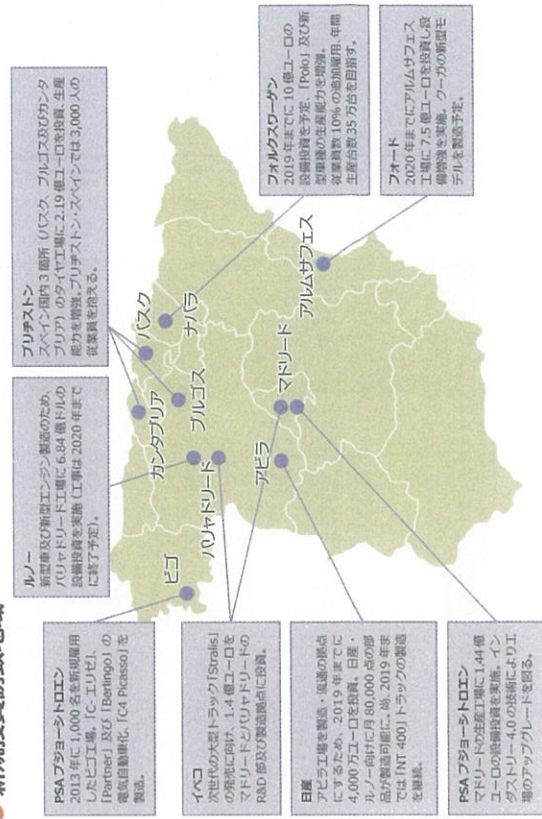
● 自動車生産台数ランキング（国別）

	2016年			2017年			2018年		
	乗用車	商用車	合計	乗用車	商用車	合計	乗用車	商用車	合計
1 中国	24,420,744	3,698,050	28,118,794	24,806,687	4,208,747	29,015,434	23,529,423	4,279,773	27,809,196
2 米国	3,934,357	8,263,780	12,198,137	3,033,216	8,156,769	11,189,985	2,795,971	8,518,734	11,314,705
3 日本	7,873,886	1,330,704	9,204,590	8,347,836	1,345,910	9,693,746	8,358,220	1,370,308	9,728,528
4 ドイツ	5,746,808	315,754	6,062,562	5,542,971	583,235	6,126,206	5,120,409	522,323	5,642,732
5 インド	3,677,605	811,360	4,488,965	3,952,550	830,346	4,782,896	4,064,774	1,109,871	5,174,645
6 メキシコ	1,993,168	1,604,294	3,597,462	1,900,029	2,168,386	4,068,415	1,575,808	2,524,717	4,100,525
7 韓国	3,859,991	368,518	4,228,509	3,735,399	379,514	4,114,913	3,661,730	367,104	4,028,834
8 スペイン	2,354,117	531,805	2,885,922	2,291,492	556,843	2,848,335	2,267,396	661,559	2,928,955
9 ブラジル	1,778,464	377,892	2,156,356	2,269,468	430,204	2,699,672	2,386,758	493,051	2,879,809
10 フランス	1,626,000	456,000	2,082,000	1,748,000	479,000	2,227,000	1,763,000	574,610	2,337,610

単位：台

出典：OICA - Organisation Internationale des Constructeurs d'Automobiles
出典：ACEA - European Automobile Manufacturers Association

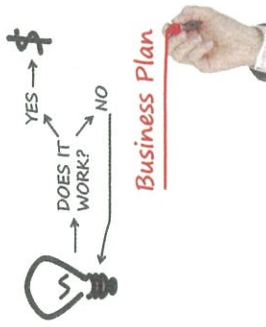
● 新規投資誘致地域



スタートアップ分野

スタートアップ分野

外国投資を積極的に誘致することで国内経済の活性化を図ってきたスペイン。経済の成熟度により、その投資形態もグリーンフィールド（60年以降）～M&A（2000年以降）へと変化してきました。そして昨今では投資ファンドやCVC（コーポレートベンチャーキャピタル）によるスタートアップ企業への投資が増える傾向にあります。



スペイン発スタートアップ企業と日系企業との協業事例

グローバル市場での事業展開を図るスペイン発のスタートアップですが、近年では日系企業との提携やバイアウト（売却）、国内で開催されるコンベンションでの入賞も増えて来ています。

● AIによる地域課題ソリューション

NTTデータ社は2018年2月にスペイン・バセロナのAIを活用した独自クラウドリング技術を持つSOCIAL COIN社との提携を発表。NTTデータ社の持つソーシャルメディアやブログを始めとするデジタル上の市民の発言データとその言語解析技術を掛け合わせ、自治体や地域ビジネスに取り組み企業向けの地域理解ソリューションを開発予定。また両社の協業の推進母体として「地域課題発見ラボ」を立ち上げ、日本・スペインを含む世界の主要都市間比較を行うことで、SDGsに関連する地域課題の深層やソリューションの導出に取り組む。

● eスポーツ

日本でモバイルゲーム及びライブエクスプレインズ事業を手掛けるアカツキ社は、2018年8月にスペインのPROFESSIONAL ESPORTS LEAGUE (PEL) 社を子会社化。PEL社はプロスポーツチームのeスポーツ部門が参加するeスポーツリーグ「LPE」を設立・運営、アカツキ社は「LPE」の運営をサポートすると共にアジアにおける事業開発パートナーとしてeスポーツ市場のグローバルな成長を牽引することを目指す。同リーグには既にFC/バルセロナやビジャレアル（スペイン）、サンタスFC（ブラジル）といった歴史あるサッカーのクラブチームが参加を表明しており、2019年にはファーストシーズンの開幕予定。

● 不動産情報サービス

日本最大の不動産物件情報を有するLIFULL社は、2014年より複数のサイト情報を1つのサイトで閲覧できる不動産アグリゲーションサービスにおいて世界トップクラスの規模を誇るスペイン企業TROVIT社、及びMITULA社を立て続けに子会社化。2019年1月には傘下の両社

を統合した新会社「LIFULL CONNECT」の設立を発表し、その高い技術力や計63か国・地域でサイトを展開するグローバルなユーザー数、経験豊富な人材等、双方の経営資源を融合させた多言語対応のプラットフォーム構築を目指す。またグローバルが掲げる「世界一のライブデータベース&ソリューション・カンパニー」に向け、海外展開を加速させる。

● AIによる意味検索エンジン

NTTコミュニケーションズ社は自然言語処理を用いた独自のAI技術を提供するスペインのスタートアップINBENTA TECHNOLOGIES社と提携。同社が開発した文章の意味を理解することが可能な「意味検索エンジン」に関する日本市場での独占販売権を有しており、2017年1月からは当該エンジンを活用した企業向けサービス「COTOHA」の提供を開始。また2018年5月にはNTTドコモ・ベンチャーズが同社への出資を発表。企業間の連携を深め、AI事業の強化の推進を目的としている。

● インドアマッピング

屋内の位置情報収集システムを開発するスペインのSITUM TECHNOLOGIES社は2017年にPacific Spatial Solutions社と代理店契約を締結。今後の成長が期待されるインドアマッピング市場にて、SITUM社は地磁気、Wi-Fi、Bluetoothといったあらゆるセンサーを用いたハイブリッド測位方式により高精度の屋内測定を実現している。

● スタートアップコンベンへの参加

スペイン企業の間で知名度の高いスタートアップコンベンとしては、NTTデータ社が世界20都市で開催している「グローバルオープンイノベーション」があります。参加国の中でスペインは唯一、マドリードとバルセロナの国内2都市でコンテストを開催しており、奇しくも2017年・2018年の開催会は連続でスペイン発のスタートアップがグランドチャンピオンを獲得しています。

また2018年に東京都が実施したアクセラレータープログラム「ビジネスキャンプ」では、フィンテック・テック分野を合わせ先進的な技術・ビジネスモデルを持つスペイン企業2社が参加し、日本企業とのママツチン

コンベンでの主なスペイン企業の実績

<NTT DATA グローバルオープンイノベーション>

- 第5回 最優秀賞獲得 Social Coin - AIによる市民の声分析やビットコイン活用報酬による社会問題解決
- 第6回 最優秀賞獲得 GESTOOS - 人のジェスチャーを詳細に捕捉し、動きでコンテンツやサービスを操作できる人工知能ソリューション

<東京都 ビジネスキャンプ>

- フィンテック分野 ● ELECTRONIC ID - AIを活用したリアルタイム動画解析技術を開発、金融分野では銀行口座開設の際の本人確認作業等に利用されている
- SITUM INDOOR POSITIONING - センサーによる高精度の屋内ナビゲーションを提供。

<AG/SUM> ※日経新聞が2017年に立ち上げたサミットイベント。アグリテック、フードテック、バイオテックにフォーカス

- 日経賞獲得

Biome Makers - ワイン畑の土壌や微生物を分析し、品質と収穫量を上げる支援技術プロバイダー

社会インフラ分野

世界のインフラ市場をリード

民間資金 (PPP: 官民連携) を活用して社会インフラの整備を図るコンセッション。スペイン企業はコンセッション事業にいち早く取り組み、施設の運転や保守に関して必要な経験・技能・知識を獲得してきました。

今日、スペイン企業はコンセッション事業の世界ランキングで他を圧倒しています。同ランキングのトップ 20 のうち、ACS 社、Ferrovial 社、Sacyr Vallehermoso 社、Abertis 社、FCC 社、Acciona 社など計 7 社がスペイン企業。中南米や欧州を中心に、多数のプロジェクトを受注しています。

また、アジアの新興市場であるベトナムやインドネシアなどでも急ピッチで社会インフラ工事が計画されています。スペインのコンセッションナーは海外市場での道路建設や有料道路の料金徴収、メンテナンスに至るまで一貫した事業の経験が豊富です。今後、アジアを含めた海外市場での日本-スペイン企業共同参加が期待されています。

● コンセッションランキング

企業名	国	合計	国内プロジェクト	応札待ち
1 ACS Group / Hochtief	スペイン	59	17	56
2 Vinci	フランス	47	17	15
3 Abertis	スペイン	45	11	14
4 Macquarie	オーストラリア	41	1	3
5 Ferrovial	スペイン	39	11	15
6 Sacyr	スペイン	33	13	7
7 Meridiam	フランス	30	3	9
8 Globalvia	スペイン	27	16	2
12 OHL	スペイン	23	8	10
19 Acciona	スペイン	16	8	7

出典：PWF's International Major Projects database, 1985-2017

● 主なプロジェクト事例

➤ スペイン国営鉄道 (Renfe)、鉄道車両メーカーのタルゴ、鉄道インフラ管理公社 (Adif) からスペイン企業 12 社による企業連合は、サウジアラビアのメッカ ~ マディーナ間の 450 キロを結ぶハラマイン高速鉄道 (HHR) の車両供給、鉄道敷設などを受注。受注額は約 67.36 億ユーロ。

➤ FCC 社が率いるコンソーシアムがサウジアラビアのリヤドにおける地下鉄 4,5,6 号線建設プロジェクト建設事業を受注、事業費は計 60.3 億ユーロ程度。

➤ IBERDROLA 社は英国にて世界最大規模となる 1,200MW の洋上風力発電所 East Anglia 1 の建設・運営事業を受注、事業規模は 50 億ユーロ程度の見込み。

➤ ACS 社・FCC 社が参加するコンソーシアムがペルー・リマ市の Ate ~ Callao 間を走る地下鉄 2 号線及び 4 号線の支線建設事業を受注。受注額はおよそ 39 億ユーロ。

➤ オーストラリアメルボルンの有料道路 East West Link の建設事業を ACCIONA 社を含む企業連合が獲得。プロジェクトの道路は延長 6.6km、4.4km に及び 3 車線の道路 2 本を含み、総事業費は 37 億ユーロ程度になる予定。

➤ SACYR 社・INDRA 社が参加するコンソーシアムは、パナマ運河のアプローチ新水路建設及び既存の水路の新水門・拡張工事事業を受注。受注額はおよそ 24.79 億ユーロ。

➤ 欧州で最も環境に配慮した次世代ターミナル第一号といわれるヒースロー空港の T2A ターミナルの建設をスペイン FERROVIAL 社が建設。事業費は約 9 億ユーロとされる。

● 日系企業との共同プロジェクト

➤ 2017 年 10 月 両社は、スペイン北西部にあるムガルダス LNG 受入基地の操業会社 Regasificadora Del 社の株式 15% を保有する First State 社の株式 100% を取得。日系商社として初めて、欧州での LNG 受入基地事業に参画します。(同社ホームページ参照)

➤ 2017 年 6 月 日本貿易保険は、チリ共和国北部アタカマ砂漠に位置する Huatacondo 太陽光発電プロジェクトに対しマーチ

ヤント・パワープラントへのプロジェクトファイナンスに対する保険引受を決定、同プロジェクトには双日・四国電力・Eiffage 社らが結成するコンソーシアムが参加。(NEXI ホームページ参照)

➤ 2015 年 3 月 国際協力銀行は、スペイン Abengoa 社の子会社でグループの建設事業を統括する Teyma Gestión de Contratos de Construcción e Ingeniería 社との間で、モロッコ王国アガデールにおいて国内最大の海水淡水化プラントを建設するにあたり、融資金額約 11.5 百万ユーロを限度とするバイヤーズ・クレジットの貸付契約を締結。本件は JBIC がアフリカにおける水インフラ事業を支援する初のプロジェクト。(JBIC ホームページ参照)

➤ 2015 年 3 月 三井物産は業界最大手の風力発電用タワー・フランジメーカーであるスペインの GRI Renewable Industries グループを統括する持株会社 Convarri Eólica 社への出資を発表。風力発電開発におけるバリュチェーンの拡充、事業基盤の強化を図っています。(同社ホームページ参照)

➤ 2014 年 4 月 三菱商事と上組は共同でスペイン・バレンシア港コンテナターミナルを運営する TCV Stevedoring Company 社の発行済み株式 25% を Grup Maritim TCB 社から取得。戦略的提携を組むことで、初めて本格的なコンテナターミナル事業に進出することになりました。(同社ホームページ参照)

➤ 2014 年 2 月 伊藤忠商事は、スペイン・カナリア諸島にて上下水道サービスを提供する CANARAGUA CONCESIONES 社の株式 33.4% をスペイン最大の民間水道事業会社であるアグバールの子会社 CANARAGUA 社から取得。民営化の歴史が長く世界有数の水道コンセッション市場とされるスペインに、日本企業として初めて参入を果たしたことになります。(同社ホームページ参照)

在日スペイン大使館 経済商務部

〒106-0032 東京都港区六本木 1-3-29 3 階
 電話：03-5575-0431 FAX：03-5575-6431
 電子メール：tokio@comercio.mineco.es
 ウェブサイト：http://www.spainbusiness.jp/

本冊子内全ての写真の著作権は、Herrera/Kominek/CEXIに帰属します。